

## OS のリカバリ

授業を進めていくと OS が壊れてしまう学生が数名います。原因は様々ですが、2 回目の授業終了後にバックアップを取っているはずですので OS のリカバリは簡単です。

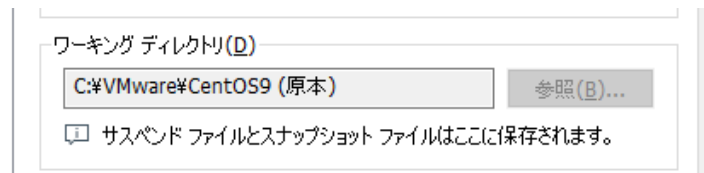
### (1)VMware でのバックアップとリカバリ

#### ①バックアップするデータ(CentOS)のインストール先の確認

VMware を起動 → バックアップしたい OS を選択 → 右下の「仮想マシン設定の編集」をクリック



#### ②「オプション」タブ → 「ワーキングディレクトリ」



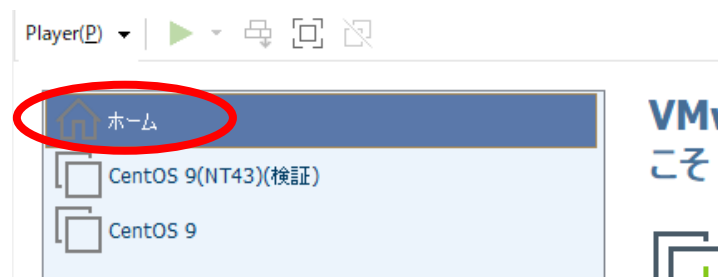
※上記の例では「C:\¥ VMware¥CentOS 9(原本)」の中にデータが保存されています。(人によって異なります)

③②で確認した CenOS のデータフォルダ上で右クリック → コピー → (バックアップ先)貼り付け  
→ 適当に名前を変更(例 : Cent9\_Backup) ※この作業は終わっていますね？

\*\*\*\*\*

### ●バックアップからのリカバリ方法

#### ④VMware の「ホーム」をクリック → 「仮想マシンを開く」をクリック

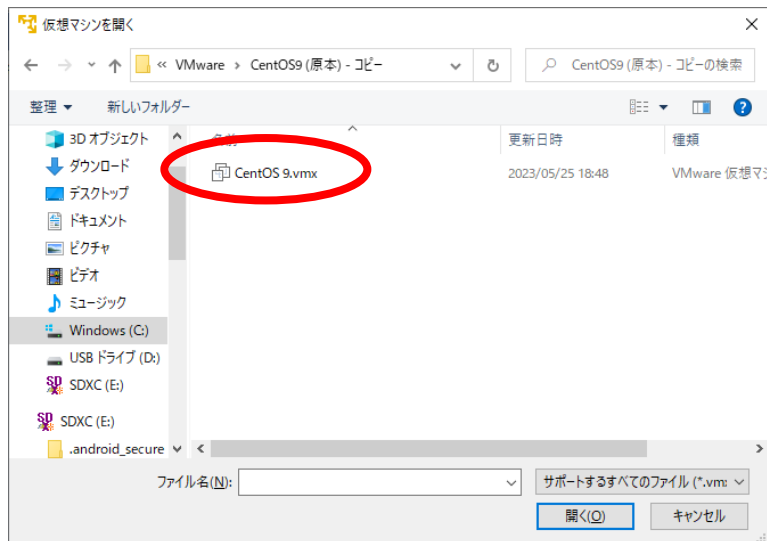
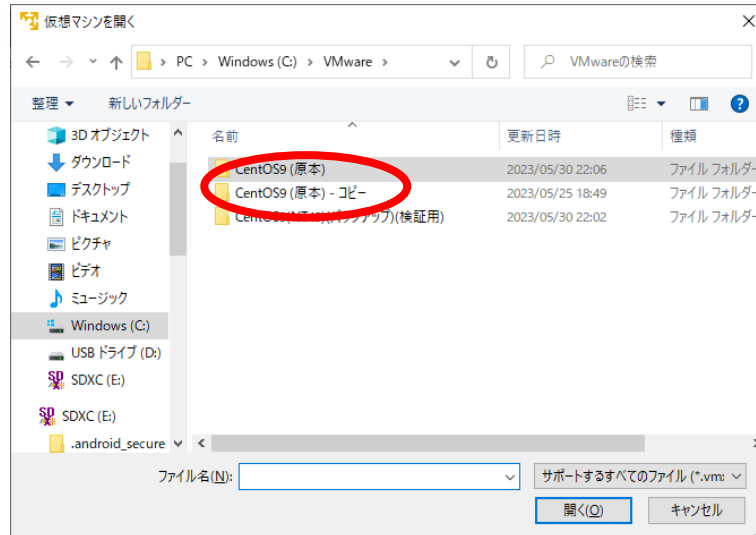




## 仮想マシンを開く (O)

既存の仮想マシンを開き、ライブラリの先頭に追加します。

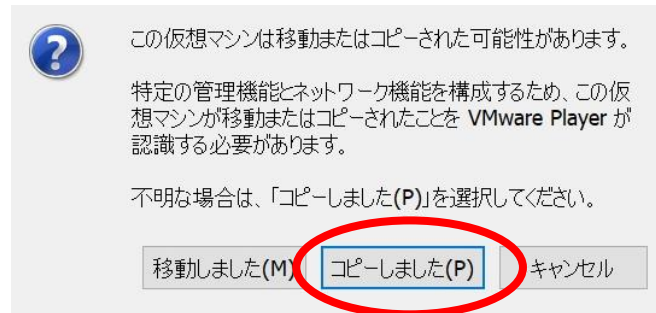
⑤③でバックアップしたフォルダを選択 → ～.vmx(今回は CentOS9.vmx) を選択



リカバリ完了！

- ⑥仮想マシン名がバックアップ元と同じなので → 右下の「仮想マシン設定の編集」をクリック  
→ 「オプション」タブ → 「仮想マシン名」を適当な名前に変更 → 「仮想マシンの起動」

⑦途中で



とメッセージが出たら「コピーしました」を選択。これで OS が起動するはず…

●注意！ これでバックアップの OS を利用できます。

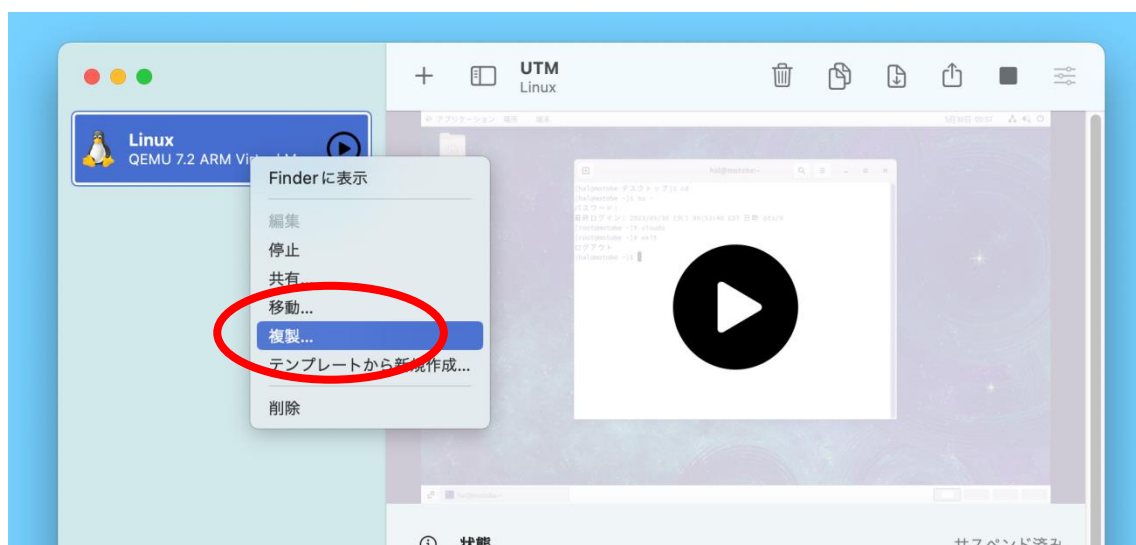
VMware の利点は他の PC で作成した OS も起動できる点です。つまり自宅のデスクトップ PC で作成した OS や先生や友人から貰った OS も利用できます。←ノート PC が物理的に壊れてバックアップが利用出来なくなった時もわざわざ Linux を再インストールしなくても良い。

しかし、たまに CPU 互換の問題で起動出来ない時もありますので注意してください。

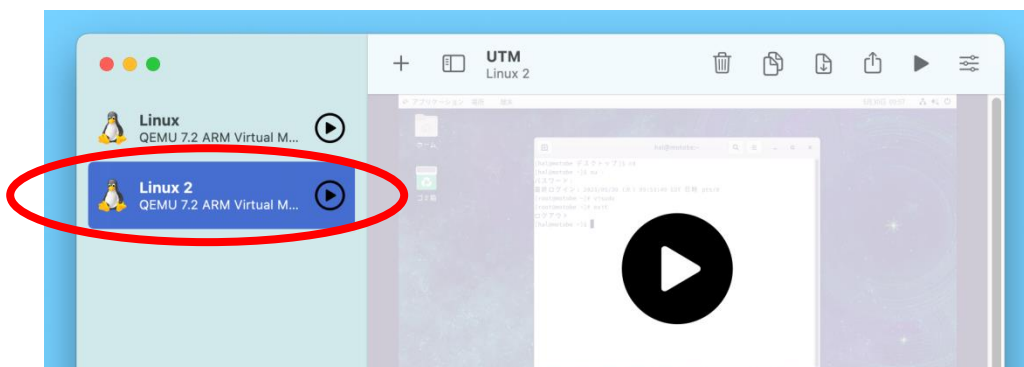
※高性能の CPU(Corei7 等)で作成した OS を低性能の CPU(Atom 等)の PC で起動しようとした時。ただし、逆はほぼ OK。

## (2)UTM でのバックアップとリカバリ

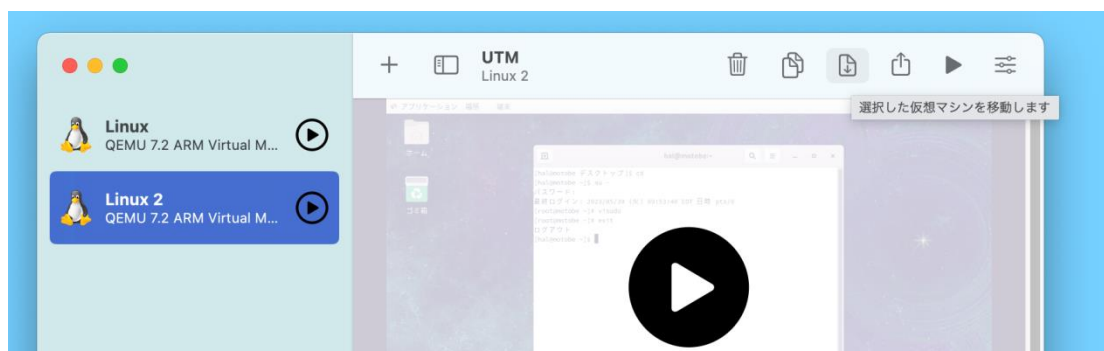
### ①ローカル(UTM 内)でバックアップ



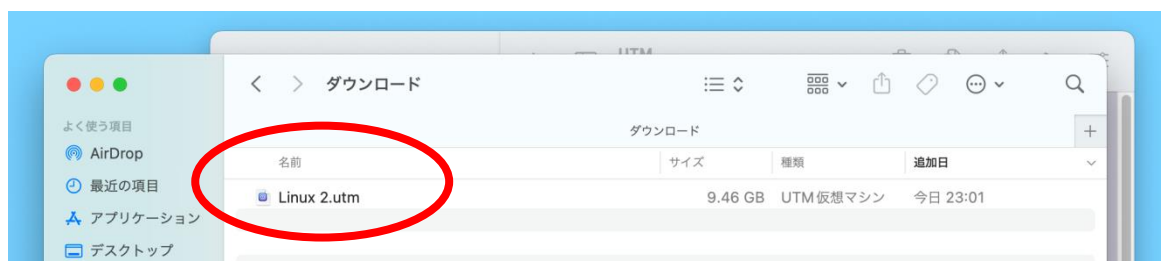
※バックアップを取りたい OS の上で右クリック → [複製]  
簡単ですね！



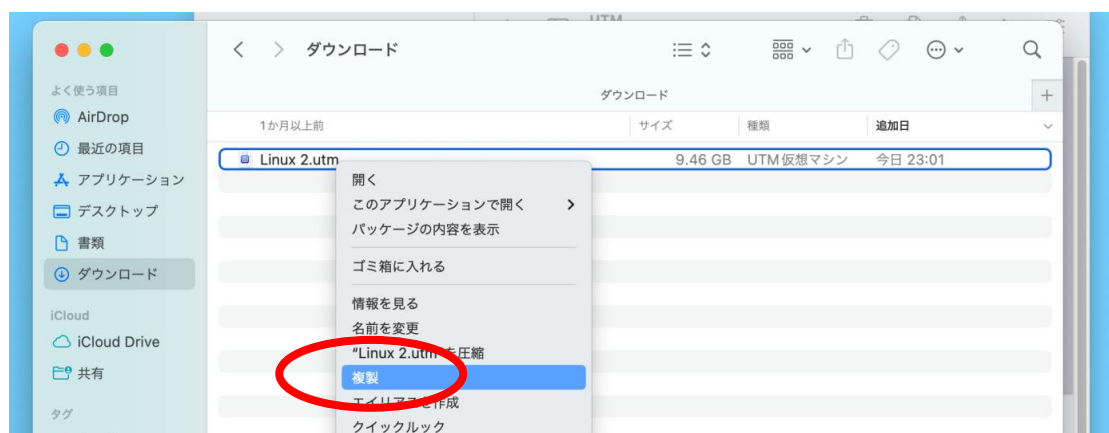
## ②他の媒体(USB メモリ他)にバックアップを移動



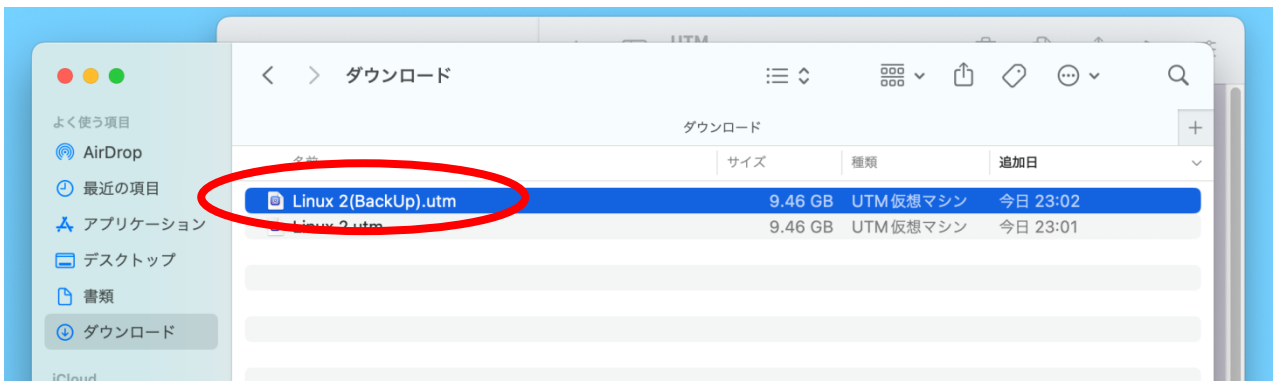
※右上の「選択した仮想マシンを移動します」を選択



※これが仮想マシンのデータです！



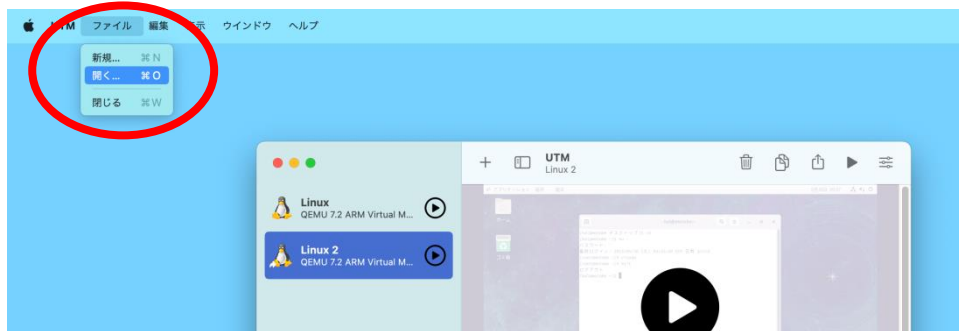
※この作業は「移動」になりますので、必ず先に UTM 内に複製を取って置きます



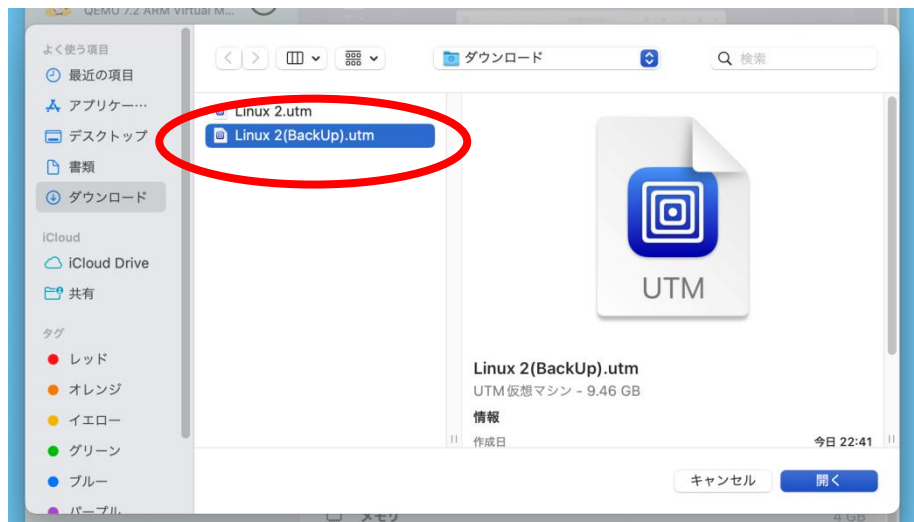
※適当なバックアップ名を付ける

※これを USB メモリ他に移動すれば、MAC 本体に何かあっても Linux の再インストールの必要はありません！

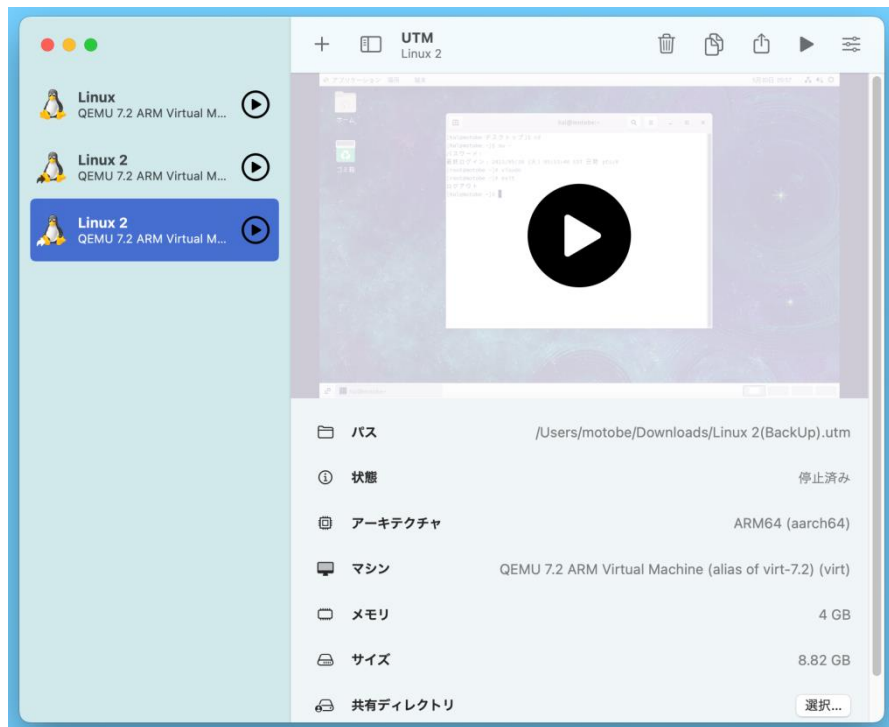
## ②バックアップから OS をリカバリ



※UTM のメニュー → [開く]



※リカバリしたい OS を選択



※リカバリ完了！簡単ですね！

### (3) コンピュータ名(ホスト名)の変更 ←説明済み

友人や先生からバックアップデータを貰った時はコンピュータ名(ホスト名)がインストール時に設定されたものになっています。

[hal@motobe /]\$

今はそのままで問題有りませんが勿論、変更もできます。

※ただし、後期のサーバ構築では非常に困る ←同じ名前のサーバが複数、教室に存在することになる

①ホスト名の確認

```
[hal@motobe ~]$ hostname
motobe.com
```

②ホスト名の変更

```
[hal@motobe ~]$ sudo vi /etc/hostname
osaka.com
```

※vi エディタです。変更したい名前に書き換え

```
[hal@motobe ~]$ sudo reboot
```

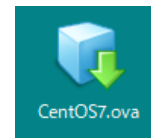
※再起動後

[hal@osaka ~]\$ ←変更できました！

## (4) 他のソフト(VirtualBox)で作成された OS を認識

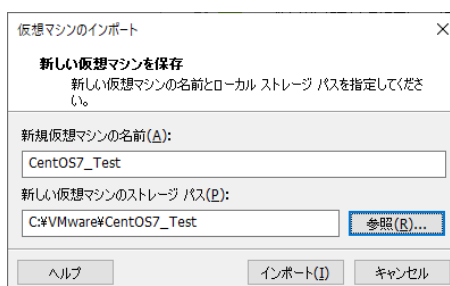
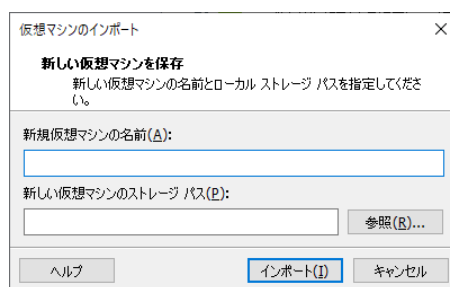
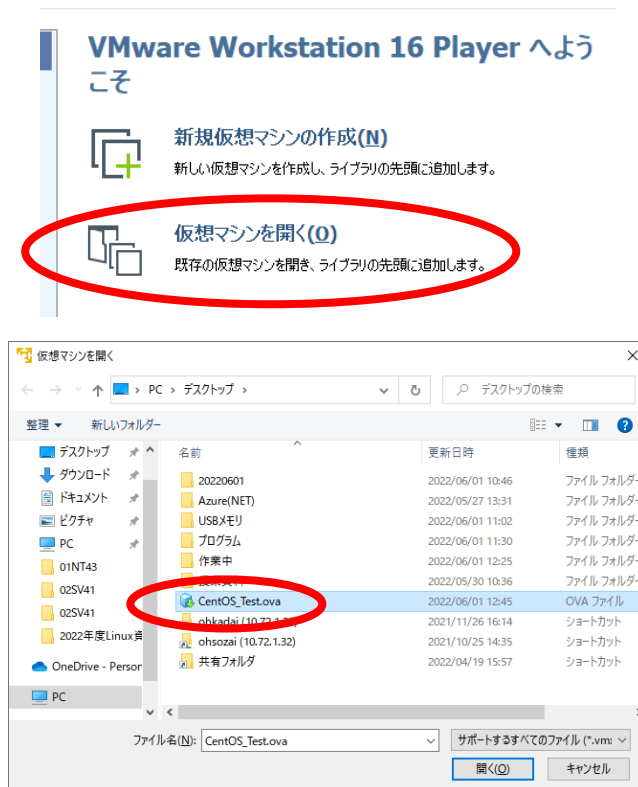
VirtualBox でインストールされた OS も VMware では認識する事もできます。

※UTM ではで認識できません

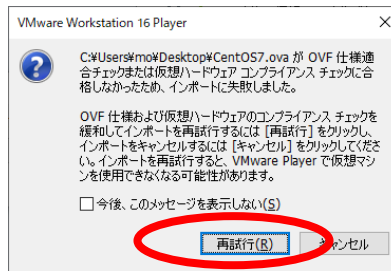


- ① VirtualBox で作成されたバックアップをファイル(拡張子が ova)を読み込み。

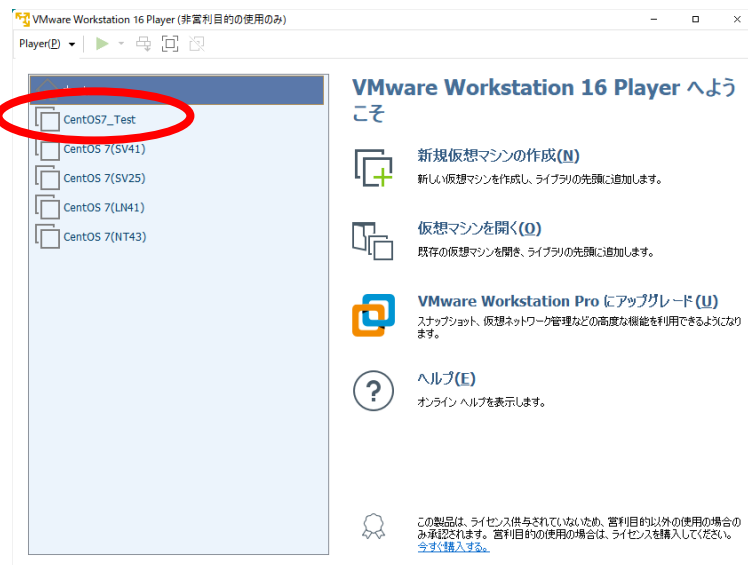
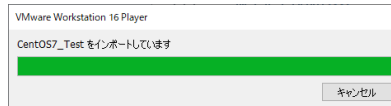
Vmware の TOP 画面 → [仮想マシンを開く] → 拡張子が ova のファイルを選択



※名前と保存先を指定



※[ 再試行 ]を選択



- ・認識されましたので起動確認してください。
- ・P6の「(3) コンピュータ名(ホスト名)の変更」を行って、名前の変更もしましょう。

※試験はこの様に「試験用の Linux」を配布する予定です。

以上